



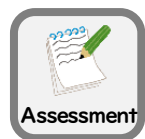
全校授業研究会 高等部

生活単元学習（Dスタディ） 星グループ

発見★チャンネル～ボウリングの楽しさ～

Dスタディ星グループでは「わかはとシステム」に基づいた授業づくりを行い、7月18日に全校授業研究会を開きました。“生徒の夢や願い”を基点に、どのような資質・能力を育めばよいのか、そのために、本単元で目指すねらいをどう設定するのか、そして、生涯学習力の高まりをどう見取るのか。今回の研究部だよりでは、授業づくりの過程や全校授業研究会でいただいた御意見・御助言をお伝えします。

わかはとシステムによる授業づくり



Assessment

○生徒との面談、保護者との面談による、“夢や願い”の聞き取り・見取り



生徒

- ・体を動かしたい
- ・友達と楽しいことをしたい
- ・友達と遊んだり出掛けたりしたい



保護者

- ・読み書き計算のスキルを身に付ける
- ・自分の思いを伝える
- ・活動を楽しむ



教師が子どもに願う姿

- ・得意な手段で必要な情報を集める姿
- ・自分の思いを言葉や身振りで相手に伝える姿
- ・他社と関わり役割を果たしながら活動する姿



Plan

「わかはとモデル」に基づいた生徒の実態

人とつながる…身近な人から誘いを受け入れたり、聞かれたことに答えたりしながら関わる。

情報を集める…経験したことを思い出して考える。身近な人に聞いて情報を集める。

試す…見本や手本を頼りに、身近な人と一緒に試そうとする。

興味・関心…経験のあることの中から、好きな事柄を選んで取り組む。

Dスタディ星グループ「発見★チャンネル～ボウリングの楽しさ～」

ボウリングをテーマに学習を行う。ボウリングを通して人と関わり、ボウリングの楽しさを伝えるための方法を考え、実践する。それを「発見★チャンネル」として記録し、配信する。

地域のボウリング場への行き方を調べたり、利用したりする。ボウリングを経験し、振り返りでボウリングの楽しさについて考える。



Do



Check



身近な施設に気付いたり、見付けたりすることはできたが、行ってみてみたいという気持ちが薄い…

つながり ミーティング

友達の「やってみたい」ことに取り組み、「やってみたら楽しい！」の経験を増やすことが必要！



Plan

Dスタディ星グループ「発見★チャンネル～ボウリングの楽しさ～」

地域のボウリング場を利用した経験を生かして、学校で模擬ボウリング場を作り、楽しさを伝える。



Action

経験した楽しさを「伝えたい」と思えるようにするためのしかけ







Point

【実際にボウリングを経験する】

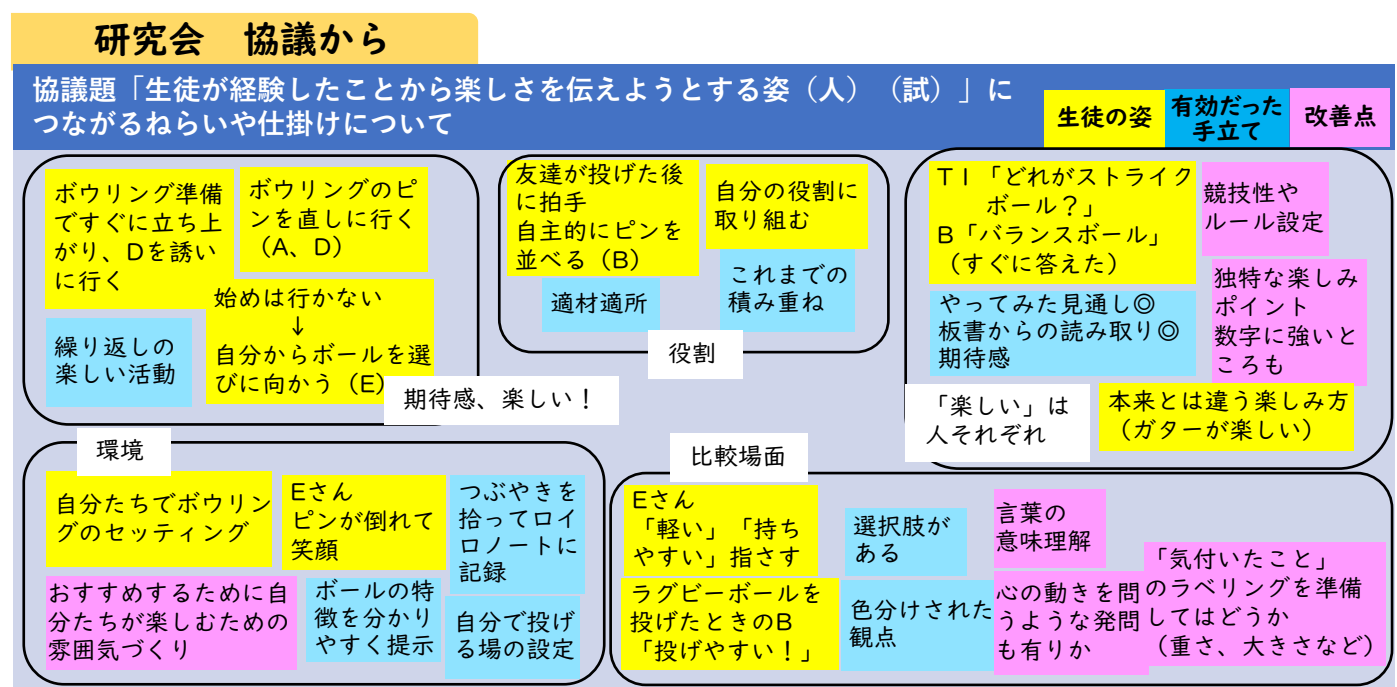
- ・地域のボウリング場でボウリングを経験し、楽しさについて考える。

【ルールや道具の工夫】

- ・様々な人が楽しめるボウリング場作りのために、道具やルールを工夫する

【次回への意欲付け】

- ・本時の学びと次回予告を撮影し、次回の授業に活用する。



【協議で話題になったこと、改善点】

- ・自分が目一杯楽しむことが必要。今後は実感した楽しさを、誰に伝えるのか？が大切。
- ・自分たちが楽しむことで、「伝えたい！」という思いが出てくる。（そこには手立てが必要な可能性も）自分なりの表現で誘う、選んだボールで楽しんでもらう、友達が自分たちの作ったボウリング場で楽しんでもらうことで、成功体験へとつながる。
- ・ボウリングの楽しさをより感じられるように、応援している人の盛り上がり方を教師が示したり、一緒に喜んだりすることも効果的。

研究協力者の先生から

<秋田大学教育文化学部講師 能田昂先生>

- ・楽しさを伝えるという目的。ボウリングでは倒したピンの数（実際のスコア）を楽しむが、独自に「楽しんだスコア」（実際のスコアとは比例しないもの）を設定してみても面白いかもしれない。
- ・ボウリングは高齢者がチームを組んで活動していることも。健康、運動、余暇の視点からも、ボウリングという題材はよかったと思う。
- ・まだ慣れていない（関係が出来上がっていない）グループでの活動。「気持ちを伝えたい人がいる」「相手のことを想起させながらモチベーションを高めていく」ことの大切さ。
- ・今回の学習を他の公共施設や資源の利用、余暇活動等に般化させていけると良い。

<天王みどり学園教諭（兼）教育専門監 小野直子先生>

- ・「ルールや楽しみ方を知る」という目標は、小学部段階や中学部段階でも成立する。あえて高等部段階でこのようにねらいを設定した背景には、教師のいろいろな思いがあるのでは。
- ・生徒の興味・関心に基づいた授業設定。わかとはモデルの視点で単元の内容が整理、検討されて授業が行われている。
- ・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点で授業を振り返ると、「どのように学ぶか」がとても充実している。
- ・「何を学ぶか」→高等部段階では、社会とのつながりを意識した知識・技能の目標。ボウリング場（遊技場）の使い方、年齢層、療育手帳の扱いなど、広く捉えるのはどうか。